

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 21 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2011～2015

課題番号：23520403

研究課題名(和文) ドイツ語圏の演劇におけるポストモダン美学の浸透

研究課題名(英文) The postmodern aesthetics in the theatre of the German-speaking countries

研究代表者

新野 守広 (NIINO, Morihiro)

立教大学・異文化コミュニケーション学部・教授

研究者番号：00228131

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、ルネ・ボレシュ、ファルク・リヒター、アルミン・ペトラス、マリウス・フォン・マイエンブルク、デア・ローアー、ルーカス・ベアフス、ローラント・シンメルプフェニヒら1960年代以降に生まれたドイツ語圏のおもな劇作家の戯曲を対象に、彼らの表現活動に共通するドラマ批判の動機を、それぞれの作家に即して詳しく考察し、ドラマ形式からポストドラマ形式へ表現の重点が移りつつあるドイツ語圏の演劇の現状をポストモダン美学の浸透という観点から明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This research project has investigated the dramas of the playwrights in the German-speaking countries, especially of the playwrights who were born after the 1960s. The dramas of this generation such as Falk Richter, Armin Petras, Marius von Mayenburg, and Dea Loher can be mainly characterized by the so called postmodern aesthetics which was named postdramatic aesthetics in the field of theater. This research shows how the postmodern aesthetics was infiltrated in the recent dramas in the German-speaking countries.

研究分野：人文学

キーワード：独文学

1. 研究開始当初の背景

ドイツ語圏の演劇では、1970年代に演出家の時代を迎えて以降、大衆的な影響力を發揮する映画やテレビのナラティブとは一線を画し、身体性を強調したり、コロス(合唱隊)を導入したり、映像・音響メディアを併用したりする、いわゆるポストモダン美学の演劇表現が主流になった。

この傾向に関するドイツ国内の研究は充実している。特にフランクフルト大学ハンス＝ティース・レーマン教授の著した「Postdramatisches Theater(ポストドラマ演劇)」(Verlag der Autoren, 1999)とベルリン自由大学エリカ・フィッシャー＝リヒテ教授の著した「Ästhetik des Performativen(パフォーマンスの美学)」(Suhrkamp Verlag, 2004)は、ポストモダン美学の研究が演劇学の中心課題となる重要な契機になった。レーマン教授の研究は、ドラマの規範力の希薄化から生ずる表現を「ポストドラマ演劇形式」と名付け、その分析に端緒を開いた画期的研究である。フィッシャー＝リヒテ教授の研究は、1960年代以降の舞台表現が「パフォーマンスな転回」後の新しい段階に入ったことを論証する大著であった。

このためフィッシャー＝リヒテ教授が主任を務めてきたベルリン自由大学演劇学研究所では多数の研究プロジェクトが行なわれており、その多くがレーマン教授とフィッシャー＝リヒテ教授の研究成果を踏まえた意欲的なプロジェクトである。しかしこれらの研究の重点は、上演舞台の分析や社会における記号の演劇的振舞いの分析に置かれており、現代の劇作家がポストドラマ演劇形式の戯曲を書く際の動機はかならずしも十分に研究されてはいないのが現状であった。

一方、上記分野に関する日本国内の研究は端緒が開かれたばかりであった。たとえば、国際化する演劇祭の実情を記述した谷川道子著『ドイツ現代演劇の構図』(論創社、2005年)は、その代表的なものであった。同書で谷川は、「ドイツ世界演劇祭2002」や「ラオコーン2002」などドイツ国内の主要な国際演劇祭について詳しく分析し、ポストモダンの美学が主流になったヨーロッパ各国の演劇祭の現状を明らかにした。また谷川は1980年代の西ドイツ各地の演劇についても詳述しており、同書は日本人研究者による1980年代西ドイツ演劇の貴重な証言となった。

四ツ谷亮子著「1990年代以降の現代演劇の実践と批評」(『演劇インタラクティブ』早稲田大学出版部2010年、所収)は、谷川も触れた「ラオコーン2002」をはじめ、ベルギーの「クンステン・フェスティバル・デザール2006」にも言及し、日本の若手劇作家たちがヨーロッパのポストドラマ演劇の流れの中で注目されている事実を明らかにしていた。

大塚直著「アングラ演劇の世界的位相」(同書所収)は、1969年に西ドイツの演劇祭「エ

クスペリメンタ3」に招聘された寺山修司主宰の劇団天井桟敷の公演を当時の劇評をもとに振り返りながら、現在ドイツでポストドラマ演劇の旗手とみなされているリミニ・プロトコルや日本のPort-Bの表現には、寺山の演劇表現の核心を成していた劇的想像力が欠落している点を強調した。

本研究の研究代表者新野守広は『演劇都市ベルリン』(れんが書房新社、2005年)を著し、第二次世界大戦後の冷戦期、東西ドイツ再統一後の1990年代、2000年代以降のそれぞれの時代におけるベルリン演劇の特徴を詳しく分析した。とくに2000年代以降については、劇作家マリウス・フォン・マイエンブルクやルネ・ポレシュらの若手劇作家の戯曲に顕著に見られるポストドラマ的特質について言及し、ポストモダン美学が劇作家に浸透し始めた事態を指摘した。

本研究が開始された当初、ドイツ語圏、および日本における研究状況は以上の通りであった。ドイツ語圏におけるポストモダン美学の戯曲への浸透を分析する研究は少なく、今後の研究が待たれていた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ドラマ形式からポストドラマ形式へ表現の重点が移りつつあるドイツ語圏の演劇の現状を戯曲の分析を通して詳しく調査し、演劇におけるポストモダン美学の浸透とその背景を明らかにする点にある。

3. 研究の方法

「2. 研究の目的」を達成するため、本研究では以下の3つの方法を採用した。

(1) 研究図書の整備

本研究の研究対象である作家たちの表現を分析する際の素材は主として戯曲ではあるが、戯曲は社会から孤立して存在しているわけではない。そこで、戯曲の収集のみならず、書き手としての作家を研究した作家研究、さらには作品上演史、劇場史などから始まり、舞台表象と社会制度一般の関係に関する研究書、そして西欧近代史における公共文化空間の形成と変遷に関する研究書を集め、共時的・通時的連関の中に研究対象を位置付ける必要が生じた。このような理由で、従来のドイツ演劇研究の遂行上欠かせない作家研究、戯曲研究、作品上演史、劇場史上の研究文献のみならず、都市論、建築史、近代国家形成史、メディア論等の近代国家の文化空間の表象に関する多方面にわたる基礎的文献の収集・整理をはかった。

(2) ドイツ語圏各地の公共劇場、および地域のアートセンターの活動実態の調査

ドイツ語圏各地で文化活動の中核を担っている公共劇場やアートセンターに活動の実態を照会し、活動状況を示すパンフレット

等の公刊物、映像資料、統計資料などの収集に努めた。

(3) 戯曲の分析

(1)と(2)で収集した様々な文献、資料をもとに、研究対象となる作品を読み込み、その分析を行った。また、ドイツ語圏の劇場が製作した舞台の日本公演を観察し、近年のドイツ語圏の演劇表現で指摘されることの多いポストドラマ演劇的傾向を実際に体験することも、本研究の方法の一つであった。

4. 研究成果

「3. 研究の方法」の区分にしたがって、それぞれの研究成果を以下に列挙する。

(1) 研究図書 of 整備

本研究を開始した時点において、立教大学の研究図書は、ドイツ語圏の個々の劇作家の作家研究、戯曲研究、作品上演史、劇場史を中心に整備されており、本研究を進める上で研究環境は充実していた。そこでさらに3.(1)に列挙したドイツ演劇研究上の研究文献の拡充に努めるとともに、都市論、建築史、近代国家形成史、メディア論等の近代国家の文化空間の表象に関するさまざまな基礎的文献を広範囲に集めることができた。これら収集した文献は、以下(2)から(3)の研究活動の基礎知識として欠かすことができなかつた。収集した文献をもとに、「5. 主な発表論文等」の〔図書〕に挙げた「新野守広、演劇 旅まわり一座の時代から現代の公共劇場制度まで、ドイツ文化55のキーワード、2015、168-171頁、ミネルヴァ書房」を著すとともに、〔学会発表〕に挙げた「Morihiro Niino, A Marginalization of Criticism in the Consumer's Society, International Association of Theatre Critics, 2014年10月16日、中国戯劇学院(中国、北京)」を発表した。

(2) ドイツ語圏各地の公共劇場、および地域のアートセンターの活動実態の調査

本研究代表者新野守広は従来からドイツ語圏各地の公共劇場、および地域のアートセンターとコンタクトを取り、パンフレットやプログラム等の収集を通してその活動実態を調査してきた。本研究ではこの収集作業を継続するとともに、ベルリンとハンブルクの調査対象の劇場からハンブルク・シャウシュピールハウスを選び、「5. 主な発表論文等」の〔雑誌論文〕に挙げた「新野守広、地方から生まれる国際的な文化力、ドイツ：公共劇場の挑戦、幕が上がる、査読無、27号、2013年、10-12頁」にまとめるとともに、ベルリンのハウ劇場を拠点に活動する演劇集団リミニ・プロトコルの活動を「新野守広、政治と演劇 リミニ・プロトコル、清流劇場、シアターアーツ、査読無、57号、2014、77-82頁」に詳述した。

(3) 戯曲の分析

(1)で挙げた戯曲の収集をもとに、「5. 主な発表論文等」の〔学会発表〕で挙げた「新野守広、ファルク・リヒター of 戯曲に見られる90年代以降の劇作家の特徴、日本独文学会春季研究発表会、2012年5月20日、上智大学(東京都、千代田区)」を発表し、それを土台に〔雑誌論文〕に挙げた「新野守広、ファルク・リヒターに見られる90年代以降の劇作家の特徴、ポストドラマ演劇における現代戯曲の可能性(日本独文学会研究叢書) 査読有、91号、2013年、3-22頁」を公刊した。さらに、〔図書〕に挙げた「Morihiro Niino, Deutsches Theater in einer urbanisierten Konsumgesellschaft. Die Rezeption der Werke Heiner Müllers in Japan, Deutschsprachige Literatur und Theater seit 1945 in den Metropolen Seoul, Tokio und Berlin, 2015, pp. 119-134」を公刊するとともに、日本の演劇人の活動とドイツ語圏の演劇人の活動を比較する視点が得られたため、「Morihiro Niino, Social Criticism in Japanese Theatre: The Dramatist Sakate Yôji and the Little Theatre Movement since the 1980s, Japanese Theatre Transcultural, 2011, pp. 175-187」、 「Morihiro Niino, Zur Diskussion über die kulturelle Identität – Die Inszenierung von Kinoshita Junjis „Ein Japaner namens Otto“, Trankulturalität – Identitäten in neuem Licht, 2012, pp. 175-181」を公刊し、〔雑誌論文〕に挙げた「Morihiro Niino, Caught between Solidarity and Hesitation, Critical stages, 査読有、Issue No.6、2012、(<http://archive.criticalstages.org/criticalstages6/entry/Caught-in-between-Solidarity-and-Hesitation-The-311-Earthquake-and-Theatre-in-Japan?category=3>)」を国際演劇批評誌 Critical Stage の Web 版に発表した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

新野守広、政治と演劇 リミニ・プロトコル、清流劇場、シアターアーツ、査読無、57号、2014、77-82頁

新野守広、地方から生まれる国際的な文化力、ドイツ：公共劇場の挑戦、幕が上がる、査読無、27号、2013年、10-12頁

新野守広、ファルク・リヒターに見られる90年代以降の劇作家の特徴、ポストドラマ演劇における現代戯曲の可能性(日本独文学会研究叢書) 査読有、91号、2013年、3-22頁
Morihiro Niino, Caught between Solidarity and Hesitation, Critical stages,

査読有、Issue No.6、2012、
(<http://archive.criticalstages.org/criticalstages6/entry/Caught-in-between-Solidarity-and-Hesitation-The-311-Earthquake-and-Theatre-in-Japan?category=3>)

〔学会発表〕(計2件)

Morihiro Niino, A Marginalization of Criticism in the Consumer's Society、International Association of Theatre Critics、2014年10月16日、中国戯劇学院(中国、北京)

新野守広、ファルク・リヒターの戯曲に見られる90年代以降の劇作家の特徴、日本独文学会春季研究発表会、2012年5月20日、上智大学(東京都、千代田区)

〔図書〕(計4件)

Morihiro Niino, Deutsches Theater in einer urbanisierten Konsumgesellschaft. Die Rezeption der Werke Heiner Müllers in Japan、Deutschsprachige Literatur und Theater seit 1945 in den Metropolen Seoul, Tokio und Berlin、2015、pp. 119-134

新野守広、演劇 旅まわり一座の時代から現代の公共劇場制度まで、ドイツ文化 55 のキーワード、2015、168-171頁、ミネルヴァ書房

Morihiro Niino, Zur Diskussion über die kulturelle Identität – Die Inszenierung von Kinoshita Junjis „Ein Japaner namens Otto“、Trankulturalität – Identitäten in neuem Licht、2012、pp. 175-181

Morihiro Niino、Social Criticism in Japanese Theatre: The Dramatist Sakate Yôji and the Little Theatre Movement since the 1980s、Japanese Theatre Transcultural、2011、pp. 175-187

6. 研究組織

(1) 研究代表者

新野 守広 (NIINO Morihiro)

立教大学・異文化コミュニケーション学部・教授

研究者番号：00228131

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし